

鹿児島県下市郡対抗駅伝競走大会の写真を紹介します。
各地区代表のランナーたちがたすきを繋ぐ様子です。



第25回大会（昭和53年、1978年）の様子です。



▲第61回大会（平成26年）最終日アンカーを務めた児玉貴洋さん（篠段集落）



▲第61回大会（平成26年）大会4日目、三文字中継所でたすきを繋ぐ久徳直弘さん（仮宿下出身）

チーム一丸！
たすきを繋ぐ！

上記の写真を提供いただいたのは、本町町西集落出身の鶴野明男さんからの提供です。

写真は、36年前の鶴野さんが18歳（高校3年生）、曾於地区の選手として出場し、郷土入りをしたときのものだそうです。「沿道での応援がとても多く、母校の前を走ったときは恥ずかしくて顔をあげられなかったことを昨日のこのように鮮明に覚えています。」と話されました。

次ページの写真は、昭和40年代もので各地区のランナーたちが益丸地区を走っている様子です。

※『鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会』は、昭和29年（1954年）に奄美群島の日本復帰とラジオ南日本（現南日本放送）の開局記念、それに九州一周駅伝の選手強化を兼ねて県本土の10地区でスタートしました。昭和30年（1955年）に熊毛（種子島・屋久島）が、昭和32年（1957年）に大島（奄美群島）が初出場し現在の12地区に至っています。